



患者さんに優しい腹腔鏡下肝切除

消化器外科・移植外科 千葉 斉一

腹腔鏡下肝切除とは、おなかに小さな穴を 5-6 か所ほど開け、その穴から腹腔鏡(カメラ)を含めた特殊な手術器具を入れて肝臓を切除する手術です。肝切除は、高度な技術を必要とする難しい手術の一つですが、腹腔鏡下肝切除が本当に安全なのか、メリットがあるのかという疑問や心配をお持ちの方々は多いと思います。そこで、腹腔鏡下肝切除のメリット・デメリットについて詳しく解説します。

メリット

① 整容性・創痛の緩和

肝臓は肋骨や横隔膜で囲まれたおなかの奥まった場所に存在しているため、開腹手術では通常大きな傷を開けて手術する必要があります(図1A)。しかし腹腔鏡手術では数ヶ所の小さな穴から手術を行うため、傷が小さく、術後の創痛も軽減されます(図1B)。その分手術後の回復も早く入院期間も短い(通常 7-10 日)傾向にあります。

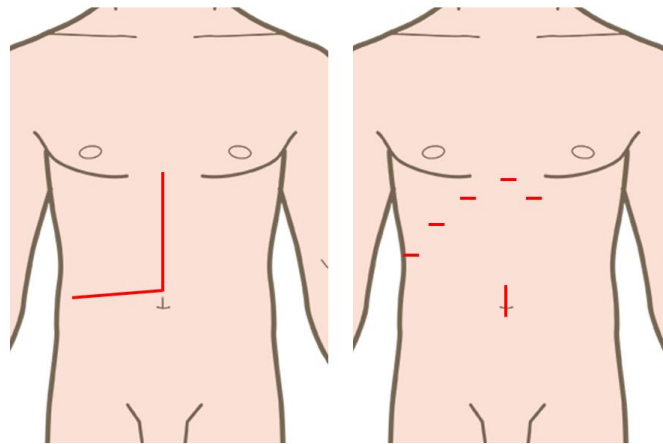


図 1 A

図 1 B

② 腹腔鏡の視野と拡大視効果

腹腔鏡手術では一般的に、近接した映像を見ながら手術を行うことになるので、開腹手術よりも拡大された視野が得られます。それにより、細かな解剖を見ながら精密な操作が可能です。とくに腹腔鏡を用いることで本来見えにくいはずの背中側の視野が得られるのは非常に有用です。

⇒裏面もご覧ください。